

広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

9

1990
SEP.
月号
NO.406



シリーズ “働く”

笑顔がステキな “看板娘”

「いらっしやいませ」やさしい笑顔で迎えてくれるのは、東京の短大を卒業して、昨年の四月から家業の菓子店を手伝っている布施由紀子さん（大町・22歳）。

「都会の生活より朝日町の方が、のんびり屋

の私には合っているみたい」と語る。仕事の方は菓子職人とはいかないが、お父さんの作った菓子を袋詰めする手つきはなかなかのもの。これから、本格的和洋菓子づくりを勉強したいと語るさわやかな“看板娘”だ。

私たちが今朝日町にやってきました

女性の感性をいかした町づくりを



司会・広報委員（栄町）
県立山辺高校講師

松田 栄子さん

朝日ナチュラリストクラブ

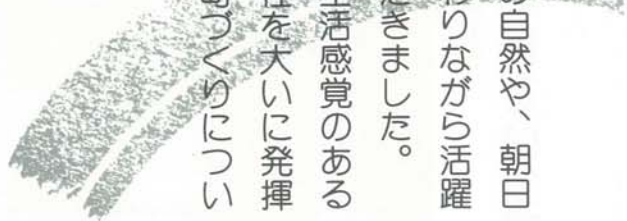
（長沼）

斉藤 ひとみさん

柴田 久美子さん

花き栽培農家（元町）

今回の座談会は、朝日町の自然や、朝日町でつくられるものにこだわりながら活躍している女性にお集りいただきました。
 優しさ、繊細さ、そして生活感覚のあるたくましさなど、女性の感性を大いに発揮していただき、これからの町づくりについて語り合っていました。



司会 今日は、朝日町にこだわりのながら各分野で活躍している女性のみなさんにお集りいただきました。それでは、はじめにそれぞれの活動の様子からお話していただきますよう。

白田 私は上郷ダムのほとりで焼き物を作っています。瀬戸市で三年間焼き物の勉強をし、やっぱり朝日町がいいなあと思いついて来て十年になりました。みなさんに愛され、心がなごむ物を作りたいと思っています。

斉藤 私は役場に勤務して十三年目です。朝日町以外で生活した経験がないので、朝日町のことしか知りません。昭和五十二

年に朝日ナチュラリストクラブが発足すると同時に入会し、自然観察などの活動を行っています。得意分野は植物です。

鈴木 私は農業をはじめて今年で六年目です。りんごと水稲を家族三人でやっています。国際的にも農業を取り巻く情勢は、とても厳しいので少し不安ですが、がんばって続けています。

柴田 私は今年の三月埼玉県からお嫁に来ました。朝日町東京連絡事務所主催のスキーツアーで、白倉に来て主人と知り合いました。りんごづくりの合間に、りんご温泉のお湯を利用したハウスで、ストックやフリー

ジアなどの花き栽培をやっています。

農業のイメージを変えたい

司会 そうですか。慣れない土地に来て大変ですね。仕事の苦労や楽しみなどについて少しお伺いしましょうか。

柴田 私は結婚前は普通のOLだったんで、花づくりと聞いても「趣味の園芸」を読む程度で、きれいなあと単純に考えていたんですが、実際に仕事をしてみると結構大変なんですよね。一日中、しゃがんでストックの



白田 とみ子さん

ほおづき窯々元（大谷三）

鈴木 ひとみさん

りんご農家（小原）



土は朝日町の粘土、上薬は ブナや、ナラの灰を利用しています

定植をしたりすると足腰が痛く

なってしまう。でも心を込めて育てた花が、きれいに咲いてくれた時は感動的だろうなあと今から楽しみです。

白田 女性で焼き物をやっているのは県内で二、三名ですが、瀬戸の学校では三分の一が女性でした。昔に比べて、電気やガスを利用した窯が普及して、女性の力でも十分できる仕事になったということでしょうね。それに、材料の土や上薬用の灰が町の物を利用できる点がいいですね。特に、ブナやナラなどの雑木の灰は、とてもよいですね。まあ、そんなことで私の場合には、あまり挫折感を感じませんでした。相性がいまいちというか、とにかく焼き物が好きだということ

でしょうね。

鈴木 私がりんごづくりをやり始めたのは、農協のりんご研究会に参加した時、若い人たちがすばらしい情熱を持って、りんごづくりに取り組んでいる姿に感動したからでした。

でも普段は日焼けするのが嫌いなので、しっかりカバーして作業をしています。だから、そんなかつこうで農業できないぞとかいわれますが、農業をやっているのも美しくありたいと思うのは女性として当然のことだし、何よりもそういう農業のイメージを変えていきたいですね。

農業に対する固定観念を打ち破って、こういう服装が、まっ赤なかわいいらんごのイメージにピッタリする姿なんだと、胸

をはつていえば最高ですね。
斉藤 私はもともと植物や星は好きだったんですが、本格的な活動を始めたのは、ナチュラリストクラブに入会したことが大きいですね。そして現在も続けられるのは、夫や家族の理解、協力があるからだと感じています。だから私の場合は、活動をやる上での苦労や障害はそんなにありませんね。

司会 八月十二日に朝日自然観で行われた星空教室はとても素敵でした。

斉藤 そうですね。昨年は「星の見える町」コンテストで全国六位になったんですが、朝日町の空がそんなにきれいだなんで全く知りませんでした。それでこんなに誇れる素材があるのなら、とことんこだわってみようということ、朝日自然観の協力もいただき、今年も開催した訳です。

私たちの回りには、そういうすばらしい自然がたくさんあるんですね。ただそのことにあまり気が付かないんです。とても残念なことだと思います。

りんご箱にフリー

ジァの花を

司会 そうですね。朝日町だけ

で生活していると、町の良い所はなかなか気付かないということとはありますね。でも、朝日町の長所を見付ける努力は大切なことだと思います。次に町のピールについて伺います。他の町村に比べてどうでしょうか。

鈴木 私が今強く感じるのは、りんごをつくる若い仲間がたくさんほしいということですね。そうすればもっと楽しく、農業のイメージも変わると思います。

そのためには、明るく楽しい、りんごづくりをアピールすることが大事だと思います。それと、男性の後継者を対象にした集団見合いはあるようですが、



蜜ロウでろうけつ 染めをやりたい

女性を対象にしたものもやってほしいですね。

司会 りんごのピールについてはどうですか。

鈴木 はい、確かにピールには工夫が必要だと思います。りんごをつくらせているのは男性中心ですが、実際に取って買えるのは女性ですよ。だから、りんごのピールも女性の感性に訴えるようなものがあればいいと思います。たとえば、私のつくったりんごの箱に、柴田さんのつくったフリージアを添えて宅配するとか。

斉藤 そうですね。青森県のりんごのピールはすごいんですよ。『青森りんごの会』なるものを新聞、雑誌を使って宣伝し、会に加入すると何回かに分けて宅配するシステムのようなのです。女性らしい発想ですよ。

柴田 私もそう思います。朝日町の特産のりんごやワイン、焼き物は、それ自体でもたいへんすばらしい物ですが、いろいろな組み合わせをすれば単品以上の価値が生まれるんじゃないでしょうか。

あとは、やはり若者が定着してくれたらもっと活気ある町になると思います。

斉藤 でも、除々にＵターンする若者が増えてくるんじゃない

ですか。私の知っている人でも三〜四人はいますよ。

町のよさを女性の感性でピール

司会 そうですね。若者が定着するような町づくりをしなければなりませんね。そのためにも夢のある町づくりも大切だと思いますが、私の知人に朝日町を日本一ロマンチックな町にしようと考えている人がいます。それは、宮宿のバイパスに夜、イルミネーションをともし、ロマンチック街道にしようというものです。みなさんの夢はいかがですか。

白田 私の夢はそんな大きなものではないんですが、手づくりの良さをみんなに知ってもらいたいということですね。手づくりの品物は、心のぬくもりを使う人に伝えてくれますからね。それから町には伝統工芸といわれるものはないようですが、これから木工や染織などをする人がどんどん増えて、その作品が町の特産品になったり、個展なんか開いてお互いに発表できればいいなあと思います。

柴田 私は、こちらに来て間もないので、どんな人がいるのかどんなサークルがあるのかよくわからないので、友達づくりを一番始めにしたいですね。それから、実家に帰る時など山形駅で朝日町の特産品やお菓

りんごを買うのは女性、ピールは女性の感性に訴えるものを



アンテナショップで特産品販売を



子をおみやげに買って行こうとすると、ワインのほかは売っていないですよ。町には、おいしい物がたくさんあるのに町内だけで売らんじゃなくて、町外へアンテナショップのような形で進出してくれればと思います。

鈴木 農業は人手がかかるのでおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に三世大家族でなごやかに暮らせれば一番いいですね。

私の趣味はロックミュージックを聴くことなんです。東京でコンサートがあるときけば飛行機でいきますし、仙台へは年三〜四回はいきますね。そうして楽しんできて、翌日からまた

りんごづくりをするということなので、若者が気軽にコンサートなどを聴けるホールなんかあればと思います。

斉藤 今、子供たちと一緒に自然観察活動をしているんですが、その子供たちが、大人になった時、自然観察のリーダーとして活躍してもらうのが夢ですね。

私自身の夢としては、親子一緒に花や昆虫のスケッチをしたり、アウト・ドアを楽しむことかな。町の夢としては、朝日自然観に動植物や星などを説明できる、専門のガイドさんがいればと思います。そうすれば、自然への理解も深まるし、朝日町のすばらしさもわかるようになるんじゃないでしょうか。

私たちの身近な自然のすばらしさに、もっと目を向けてほしいですね



司会 私の友達に蜜ロウ（蜜蜂のロウでつくったロソク）をつくっている人がいるんですが、そのロウを使つてろうけつ染めをやりたいですね。パラフィンではない、天然のロウで染め上げた着地と和服をつくつて着られるなんて、朝日町に住んでいるから可能なことのように思えます。

自然やりんごづくり、あるいは焼き物にしても、朝日町にはすばらしいものがたくさんあることに気がついてほしいですね。そして、その良さを女性の感性で外に発信する努力が大切なような気がします。今日はお忙しいところ本当にありがとうございます。

参加者募集

— ふるさと創生事業 —

海外研修派遣事業スタート

(Aコース)

▶ドイツ・バイエルン地方に学ぶ未来農業ツアー

(Bコース) 予定

▶友好の町フィリピン・アブカイ町スタディツアー

一九六〇年代から美しい農村景観をつくる努力を続けている西ドイツ



町では、ふるさと創生事業のひとつである海外研修派遣事業をスタートさせ、参加者を募集します。
この事業は広く町民のみなさんが参加し、視野を広め、国際的感覚を身につけてもらうために行うものです。

＜Aコース＞

▽研修先

西ドイツバイエルン地方と東ドイツ（ベルリン）

▽研修期間

平成二年十一月七日(水)から十六日(金)まで……十日間

▽研修内容

バイエルン地方における中山間地農業の未来と農村づくり

▽参加費

四十万円程度（うち個人負担金十万円程度）

▽対象 一般町民

▽募集人員 四名

▽応募多数の場合は選考

▽申し込み期限

九月二十七日(木)まで

※参加申し込み、問い合わせは役場企画情報課

(☎67-2111) まで

＜Aコース行程＞

11/7 (水)	午後成田からフランクフルトへ出発 西ドイツ・フランクフルト市(泊)	11/12 (日)	ミュンヘン市へ移動 ミュンヘン市(泊)
11/8 (木)	ウルム市視察 ウルム市ホームスティ(泊)	11/13 (月)	ミュンヘン市視察 東ドイツベルリン市へ ベルリン市(泊)
11/9 (金)	ウルム市視察 ウルム市(泊)	11/14 (火)	「日独、農業シンポジウム」 ベルリン市(泊)
11/10 (土)	ケンプテン市にて「シンポジウム」 ケンプテン市(泊)	11/15 (水)	午後、日本へ
11/11 (日)	チロル地方農業視察 チロル農家(泊)	11/16 (木)	帰国、解散

右は一分団三部の出場者
左は三分団四部の出場者



2年ぶり

総合優勝に輝く

西村山支部消防操法大会

県消防協会西村山支部の消防操法大会が八月五日、朝日中学校グラウンドで行われました。
大会には管内一市四町から小型ポンプ部と自動車ポンプの部に、合わせて十チームが出場し、日頃の訓練の成果を競い合いました。

朝日町消防団からは、第三分団第四部（栗木沢地区・佐久間貢一郎長）が小型ポンプの部へ、第一分団第三部（和合地区・菅井恒好部長）が自動車ポンプの部へそれぞれ出場しました。

大会では、それぞれ見事な操法を披露し、両チームとも紫（金賞）を受賞。また両部門総合でも二年ぶりの優勝（日本消防庁長官旗）に輝きました。各部から出場した選手は次のとおりです。

●第一分団第三部

指揮者 菅井千代太
一番員 清野 寿浩
二番員 鈴木 秀浩

第5回

走って笑って大きな輪

西部地区レクリエーション大会

絶好のレクリエーション日和に恵まれた八月二十六日、西部地区レクリエーション大会が、西部地区総合運動場で盛大に開催されました。

三年に一度行われる同大会は、西部地区を赤（太郎・立木）、白（三中地区）、青（松程・今平・大船木）、緑（常盤地区）の四組に分け組対抗戦で行われるもの。ユーモアと真剣さを取り入れた二十四種目の競技に、老若男女の汗と笑いと声援が、会場いっぱい飛びかいました。



若妻によるむかでリレー



熱戦が続いた綱引き、優勝したのは緑チーム



若いエネルギーがはじける「障害物競走」



おばあちゃんと一緒に応援をする〃幼女隊。

▼応援賞を狙って審査員席前までやってきた「舟みこし」





呼吸を合わせて「イチ、ニー、イチ、ニー」。



華やかな応援を続ける赤組チアガール



アベック風せん割り競走



朝日音頭にあわせて西部地区がひとつの大きな輪となりました



ピエロも応援にかけつけました？



■連絡先

役場企画情報課

企画広報係へ

☎67-2111 (内222)

「星ふる里」朝日自然観 夏の夜空に一大天体ショー

第三回 星空教室開催 〈全国星空継続観察会参加〉

八月十二日、第三回星空教室が朝日自然観のホテル前の駐車場を会場に、約五十名が参加して行われました。

コト座の一角にいくつ星が見えたかで、空気のきれいを測るという催しの「スターウォッチング・ネットワーク(全国星空継続観察会)」にも参加しました。昨年と同じ場所で行い、「星のよく見える町」全国六位になつています。

今年は、昨年よりも上位にと参加者一同目をこらして星を見上げたので、結果が楽しみです。教室では、天の川がきれいに見え、南の空が大きく開けているので、サソリ座の雄大な姿や、ハクチョウ座、北斗七星などはつきりと観察できました。また、ペルセウス流星群という流れ星が一番流れる時期とも重なり、一大天体ショーが繰り広げられました。



ビニールシートに仰向けになり観察する参加者たち

自然観のお客様や帰省中の県外の参加者たちは、「こんなに見えるんだ。すごい。」と朝日町の自然のすばらしさにしきりに感激している様子。観察会の後は、おはなし会「ぶなの実」のブラックシアターや花火大会もあり、夏の夜空を存分に楽しみました。

ぼくのおばあちゃん

太郎三

大井 寿 晴くん
(立木小6年)

大井 寿 子さん
(63歳)



ぼくのおばあちゃんは63歳です。お母さんはつとめに出ていたので妹のめんどうを見てくれます。ぼくもたまに、おばあちゃんにたのまれて妹のめんどうを見る必要があります。

おばあちゃんは、毎日にわたりの世話をします。

ぼくの家的小屋には、野良ねこがいるので、にわとりがたべられないか心配しながら世話をしています。

ぼくも、たまにおばあちゃんの手伝いをするから長生きして下さい。

ぼくたち 火あそびしません

保育園で防災非難訓練

九月一日の「防災の日」を前に、わかば保育園で朝日分署の指導のもと、防災非難訓練が八月二十九日行われました。

当日は、給食室から火災が発生し、園全体が煙に包まれたという想定。園児たちは保育さんの指導により、口元にハンカチをあて園庭にスムーズに非難していました。

訓練の後は、消防士の服装を身に付けてもらったり、映画を見るなど災害や火の恐ろしさを見る



消防署員の話に耳をかたむける園児たち



町民の

このひろばはみなさんのページです。話題やご意見、作品など、ご自由にお寄せ下さい。



藤田英一さん
(大谷五・55歳)

ひとことトーク

伝統ある風祭りにカツ！

～子供樽みこしにかけて20年～

「ワッショイ！ワッショイ」可愛いはっぴにはちまき姿の子供たち、かけ声も勇ましく、今年も元気に村中をねり歩く。歴史と伝統を誇る風神祭、今でこそ各区より屋台も出て大変にぎやかになりましたが、あの頃は実に淋しい祭りでした。祭りが始まるとじっとしてられないお祭り好きな私は、地域の活性化と親睦をはかる一番の早道は祭りと考え、まず子供達にすばらしい思い出を残そうと子供樽みこしを出すことにしました。

早いもので、もう二十年前の話です。最初に参加した子供達は、今では立派な大人となりました。いくら時代が変わっても、ふるさとの祭りに参加した喜びを、いつまでも心の奥深くに残してもらいたいものです。



若くして農業の道に新しい感覚を生かし、養蚕からりんご栽培へと燃焼した情熱は尊い。自らの営農にとどまらず、ふるさとの各地に「りんご」の苗木を届けて奨励し、来るべき未来の設計を示唆した業績は、地味なるが故にいよいよ尊い。

謙治は明治二十五年、和合宿の佐藤祐吉氏長男として出生。生糸づくりがさかんに進められていた時代である。

彼は家業を手伝いながら、養蚕の飼育法に創意を入れて省力化をはかり、やがては蚕業指導員（おごさま先生）として農家を巡回するようになる。

しかし、以前から米＋養蚕と

ふるさと人国記 5

佐藤 謙治

りんご栽培普及の父

いう方式からの脱却を考えていた謙治は、りんご栽培に意欲をもやし、たびたび青森に足を運んで研究を深めた。昭和十六年になって青森から苗木を持ちかえり、釜山（現和合平）にりんご園を造成し、五種類の苗木を植えた。

謙治は当時、宮宿町の町議会議員（昭和12・17年）として活躍しており、戦時中なので一年延長して満五年の任期をつとめあげた。

彼は、自家のりんご栽培だけに満足せず、りんご園の拡大を願って和合を中心とした周辺地区に、青森から苗木を持ちかえり、多くの農家に分配した。

昭和三十年代にはいつてから「ふじ」の苗木を導入し、今日の「りんごの町」の基礎づくりに尽力した。

その後もひたすら、りんご栽培の普及に傾注し、八十八年の生涯を全うした。昭和五十三年十二月三十一日没。

文・杉 ひさし

農業を応援してくれる人に

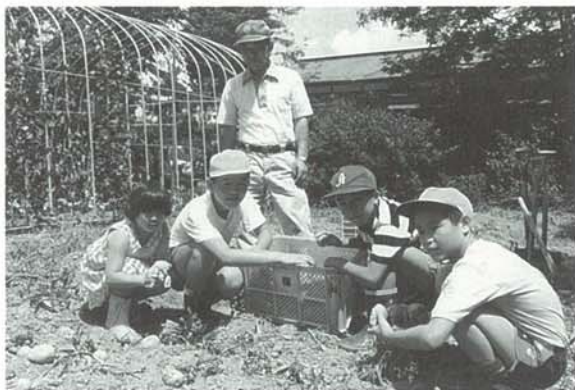
西村山郡内33名の児童が体験農業

子供たちが二泊三日農家に泊りながら、農業を体験する「二十一世紀農業の担い手体験学習」が、八月六日から郡内の指導農業者十一戸の家で行われました。

この事業は、夏休み期間を利用し農業に対する理解と、後継者育成を目的に県・市町・農協・指導農業者会の共催で行われるもの。

朝日町の受け入れは、佐藤正道さん（宿）と堀真一郎さん（舟渡）でそれぞれ三名が分宿。佐藤さん宅に泊った古沢一人君（岩根沢小六年）たち三名は、ジャガイモ収穫を体験。炎天下のもといきいきと農作業を手伝いました。

受け入れ先の佐藤さんは、「この子供たちが将来就農してくれればそれにこしたことはないが、仮にしくとも農業を理解し、後援者になってくれれば」と語ってくれました。



佐藤正道さん宅でジャガイモの収穫作業に励む児童たち

伝言板コーナー



△元町 渡辺幸雄さんの作品△



疲れた父親とTVゲームに夢中の子ども



村をあげての大名行列

古式ゆかしい大名行列

ハッ沼

春日神社祭礼

八月十五日、旧暦のうるう年に行われるという春日神社祭礼が、ハッ沼の村をあげて賑やかに行われました。

祭りのメインは二百名からなる大名行列。春日神社を出発し村内を練り歩き、途中、奴ふりや子供たちによる角田流獅子踊（町指定無形民俗文化財）を披露。沿道の人たちから盛んな拍手が送られていました。

五穀豊穡を願った 風祭りフィーバー

実りの秋を前に、五穀豊穡を祈り、災害よけのまつりとして有名な大谷の風神祭が、今年も8月31日大勢の見物客で賑わいました。

夜空には、過ぎゆく夏をおしむかのように花火の大輪が咲き、伝統の田楽ちょうちんを先頭に行列が村内を練り歩きました。中でも一番の人気は、六台の屋台が途中で練り広げる寸劇。今年は「ランバダ」、「極道の妻たち」、「国定忠治」などに人気が集まり、沿道を埋めた観衆から盛んな掛け声や、御祝儀がとどけられました。



「国定忠治。御用だ、御用だ」寸劇の一場面

三年連続の優秀賞に輝く

武田一美さん(朝日中・三年)

寒河江地区少年弁論大会

第二十九回寒河江地区少年弁論大会が九月五日、朝日中学校体育館で開かれました。

同大会には、西村山郡内の九つの中学校から代表十八名が参加。学校生活や家族のことなど身近な体験を通して感じたこと、考えたことを熱っぽく語りかけました。

朝日中学校からは、武田一美さん(三年・西町)が「喜びを求めて」と題し、母が勤めるニッ工場で勤務体験学習で学んだ、働くことの大切さを訴え、みごと優秀賞に輝きました。また鈴木優太郎君(二年・小原)が優良賞、相座育子さん(二年・太郎二)も努力賞にそれぞれ入

賞しました。



みごと優秀賞に輝いた武田一美さん

ふるさとめぐり <5>

はなびの若者の声を 次世代を担うのは俺たちだ

杉山

近頃、〃納豆〃がトレンドイ

な杉山地区。国道287号線を県南方面へドライブの途中、かわい

業や、お盆には区民の交流を図るためビアガーデンを主催

しました。また、今春の杉山分校開校に先立ち、子供を持つ親としてまた、これから親になる者としての学習会も行

いました。会員の勤め先の関係や後継者難という運営上の問題も抱えていますが、これからのむらづくり若者の声を反映させようと区との話し合いも計画中とのことです。

彼らのようなむらづくりに賛同し、更にその取り組みが大きく広がっていくことが期待されるところです。

(花山護 広報委員)

去る八月十七日のお昼近くのことでした。折しも激しい雷雨の中、自然観の喫茶店「そら」の近くで、乗用車の左後輪を左側側溝に落としてしまいました。ひとまず「そら」に避難して

お天気回復を待ちましたが、雨はなか／＼やみません。仕方がないので年寄と女子供を「そら」に残し、一人でジャッキアップを試みましたが、うまくいきません。乗用車も何台か通りかかるのですが、みんな「可哀想に」とか、「とんな奴め」と

ありがとう

トラックの運転手さん バイクのおじさん

東京都町田市 柴田五郎さん

つぱり駄目か」とあきらめようとしたところ、運転手さんがわざ／＼雨合羽を着ておりてきました。バイクのおじさんも少し先で止まって、引き返してきてくれました。

こうして三人で車の後部をヨイショ、ヨイショと二／＼三度持ち上げて車を引き上げることができました。これ wait していたように、雨が小やみになりました。トラックの運転手さん、バイクのおじさん、本当にありがとうございました。



係では、みなさんのご意見、伝言などをこの欄に掲載しますので、お気軽にお寄せ下さい。

町づくりは「里づくり」

みんなをひきつける快適な町をめざして

近ごろは全国的に地域づくりが盛んなようです。一般に「まちづくり」というと、都市の機能がその町なりに充実するように進めていく、いわばミニ都市建設のような構想も少なくありません。

しかし、そのような町には一応の生活の利便さはあっても、人の心をひきつけることとはないし、豊かな生活感到満たされるといふこともないと思います。どうすればみんなをひきつける快適な町をつくれるのでしょうか。



伝統の祭りはむらの宝(ハッ沼獅子踊)

金太郎あめでは
味気ない

情報化の時代を迎え、中央と地方の差が縮まっているようです。地方が文化的に、経済的に、中央並に発展していくのはたいへん好ましいことです。が、それは画一的な文化・経済と云えるのではないのでしょうか。日本国中どこへ行っても「金太郎あめ」のような町では、全く味気ないと思います。

都市からの
逃避地

都市では、すべてが政治・経済面の発展が優先されていくので、ともすると、そこに住んで

いる人々のことが置き去りにされる傾向があります。

もちろん、交通、娯楽、ショッピングなどの生活の利便さは申し分なく充たされていますが、環境はだんだんと悪くなり、人間らしい生活を営むには適当と言えなくなってきました。要するに、都市の発展と人間らしい生活は両立しない面があるのではないのでしょうか。

だからでしょう、人々は最近とくにすばらしい自然と美しい静かな場所で、穏やかな時間をすごすことにとてもあこがれています。

都市の人々は、暇ができると旅をして、つかの間の自然との触れ合いを求めたがるのもそういうことの現れだと思います。

いづちのよい

アメニティの町

今、アメニティ(場所・風土の快適さ)に適応していくことが地方の開発のカギになっていると言われますが、幸いにしてわが朝日町は「原風景」の名にふさわしい自然と快適な生活環境に恵まれています。

目の前には朝日連峰がそびえ立ち、最上川がとうとうと流れ、

伊藤由香里さん(大町)
最優秀受賞

第24回西村山地区

小学校水泳競技大会

第二十四回西村山地区小学校水泳競技大会が七月二十七日、寒河江市民プールで開催されました。

朝日町から出場した選手たちはすばらしい泳ぎを披露。中でも伊藤由香里さん(宮宿小・六年)は最優秀選手賞を受賞しました。優勝者は次のとおりです。

■六年女子100m自由型

柴田宏美(宮宿小) 1分16秒67

■六年女子100m背泳

阿部真子(同右) 1分23秒06

■六年女子200m個人メドレー

伊藤由香里(同右) 2分52秒03

■六年女子200mメドレーリレー

宮宿小学校 2分33秒80

(阿部真子、柴田宏美、伊藤由香里、海野知子)

■六年女子200mリレー

宮宿小学校 2分16秒01

(同右選手)

※◎は大会新記録です。

平成二年度

県民スポーツ壮年男子

ソフトボール朝日町予選会



「花いっぱい運動」は身近な里づくり活動

米、野菜、果物も実に豊富です。すばらしい条件の中で、わが町独自の生活文化を育て、快適に暮らせたらどんなに良いだろうかと思えます。

昔の里を

復活させよう

いごちのよい、そんな理想の町というのは「昔の里」のイメージではないでしょうか。

私はかつて東京での都市生活を経験し、七年前に生まれ故郷のこの町に帰ってきました。四季折々の美しい自然に囲まれて、ほんとうに気持ちやわらぎます。

けれども、子供のころ遊び楽しんだいろいろのことが、今ではあまり見かけなくなり残念に思っています。最近の年中行事といえば、小正月のお柴灯、五月の豊龍神社のお祭り、夏の盆踊りぐらいですが、以前にはもっとありました。

正月二日には子供達が初詣を売りに歩き、二月十五日の涅槃会にはお釈迦さまの小さなおだんごをもらって、三センチ角ほどの小さなキンチャクを自分達で縫い、それにおだんごを入れて「お守り」として身につけて

いました。四月八日には花まつり、その時飲んだ甘茶は何ともふしぎな味がしました。

七夕さまとクリスマスには、部落の子供会のレクリエーションがありました。一週間前から練習をはじめ、高学年が低学年に踊りや歌を教え、当日は自分達で材料を調達し飾りつけ、子供社会のタテ・ヨコがともうまくいっていました。

春には一斉に花々が咲き、とくに近くの山に群生するヒメサユリは、目を閉じると今でもはつきりと見えてきます。夏にはホタルが飛び交い、朝早くからせきや小川にかけると、ヤンマトンボがヤゴから成虫に変わるのを見ることができました。最上川では稚魚をとったり泳ぐこともできました。

もう一度、最上川をきれいにして安全に泳げるようにし、ホタルやオニヤンマがもつと飛び交うような虫の生息環境も整え、山野に「町の花」ヒメサユリをはじめ自然の花々が咲き乱れる里にしたいものです。

また、先輩の人々から伝承された部落の年中行事やこの町に育った民俗文化を大切に、獅子踊り、やっこ踊りなどの民俗芸能も正しく伝承していきたいものです。

そして、このような「里の文化」を町全体で盛り上げ、それによって人々が心を一つに通じ合えるようなきずなにしたい。もちろん、便利で機能的な生活はこれからも向上されていかなければなりません。この朝日町を「昔の里」のイメージをもたしてつくっていったらどうでしょうか。

いつでも帰りたい わが町に

現代の人々が心底から願望しているのは、昔の里のように住んでいる人々が心を寄せ合い、お互いに信頼できるような社会だと思っています。

町民一人ひとりが、自分達の手づくり文化を育てて住みよい町をつくり、やがてこの町を離れて行く子供達や、すでに町を離れて生活している人達がいつでも帰って来なくなるような、そんな町をつくれたいと思います。

このような里づくりならば、私達の身近な問題として活動をはじめることができ、地域の活性化にもつながっていくのではないのでしょうか。

(教育広報委員 倉澤美津子)



べにばな国体での活躍が期待される
壮年ソフトボール

九月四日、五日の二夜にわたリナイターによる熱戦が繰り広げられた同大会。試合結果は次のとおりです。なお各ブロック一位のチームは九月三十日行われる西村山地区大会に出場します。

■Aブロック

一位 西町 二位 栄町

■Bブロック

一位 大町 二位 四ノ沢

■Cブロック

一位 北部 二位 送橋

第六回朝日町

高齢者ゲートボール大会

九月五日、西部地区総合運動場で第六回朝日町高齢者ゲートボール大会が開催されました。

同大会には二十五チームが参加し、きびきびしたプレーを展開。結果は次のとおりです。

一位 大谷B

二位 大谷A

三位 八ッ沼

四位 太郎A

